

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 公益財団法人 滋賀食肉公社

○経営健全化方針を策定した理由：

滋賀食肉センターの運営・経営健全化は、当法人と株式会社滋賀食肉市場が一体的に取り組む必要がある。
 また、滋賀県行政経営方針(平成27年3月)においても、当法人は、経営状況の改善に向けて県が重点的関与を行う法人と位置づけられている。
 以上の点から、株式会社滋賀食肉市場とともに、当方針の策定対象と位置づけたものである。

○財政的リスクの状況

	平成29年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度末 における目標
累積損失額(千円)	980,422	951,716	922,042	906,920	890,260	730,000
損失補償の額(千円) [A]	2,116,366	2,000,768	1,885,171	1,769,574	1,653,976	1,538,379
本県の標準財政規模(千円) [B]	331,724,245	332,107,763	334,637,307	337,982,241	354,095,378	—
実質赤字の早期健全化基準(%)	3.75%	3.75%	3.75%	3.75%	3.75%	—
[A]÷[B] (%)	0.64%	0.60%	0.56%	0.52%	0.47%	—

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 公益財団法人 滋賀食肉公社

○主な取組状況

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- 前年度に引き続き、単年度黒字を計上したが、多額の累積債務を抱えるとともに、光熱水費や燃料費等の高騰に加え、老朽化が進む施設・設備等への緊急対応が増加していることなどから、資金繰りが悪化するなど、厳しい経営状況が続いている。牛のと畜頭数については、計画頭数および前年度実績頭数を下回った。
こうした厳しい経営状況を改善すべく、経営の健全化と長期安定的なセンター運営の早期実現を図るため、平成29年3月に策定した第3次経営健全化計画に沿って、経常的な経費の節減や大規模太陽光発電事業の実施、閑散期におけると畜日削減の試行等、収支両面にわたる経営健全化対策を実施した。
- 経費の節減を図りながら施設の長寿命化を図るため、令和4年度から令和33年度を計画期間とする長期保全計画を策定した。

【県による財政的なリスクへの対処のための対応】

- 消費者に対する安全で安心な食肉の安定供給と、近江牛をはじめとした本県の畜産振興を目的とする滋賀食肉センターの業務の円滑化および安定経営の実現に向けた取組を支援した。
- 外部委員により構成された「滋賀食肉センター経営評価会議」を開催し、当法人の経営改善の取組状況について意見を伺った。
- 公益財団法人滋賀食肉公社において、施設・設備の計画的な更新・修繕、適切な管理が行えるよう、引き続き必要な支援を行う。
- 滋賀食肉センターを開設してから約15年が経過するなかで、施設の老朽化等、顕在化してきている課題をはじめとして、センター全体において抱える様々な課題を洗い出し、解決するための方策や設置運営形態など、センター全体のあり方について検討を行う。

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 公益財団法人 滋賀食肉公社

○法人の財務状況

(千円)

		平成29年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算
貸借対照表から	資産総額	2,919,981	2,867,595	2,752,941	2,682,959	2,634,396
	1) 流動資産	112,950	106,127	41,457	54,114	47,172
	うち現金預金	87,748	74,435	24,157	28,657	25,606
	うち売上債権	25,037	31,663	17,272	25,429	19,298
	2) 固定資産	2,807,031	2,761,468	2,711,484	2,628,845	2,587,224
	うち基本財産	1,404,366	1,403,778	1,403,190	1,402,601	1,402,013
	負債総額	2,350,633	2,222,736	2,036,643	1,932,687	1,861,780
	1) 流動負債	80,027	91,478	39,732	70,124	60,185
	2) 固定負債	2,270,605	2,131,258	1,996,911	1,862,563	1,801,596
	うち県からの借入金	49,408	44,408	44,408	44,408	44,408
うち有利子負債	2,210,116	2,075,768	1,941,421	1,807,074	1,746,106	
正味財産合計	569,348	644,859	716,298	750,272	772,616	
正味財産増減計算書から	経常収益	406,295	407,082	402,762	427,276	413,917
	経常費用	382,315	378,337	373,088	412,154	397,257
	当期経常増減額	23,981	28,745	29,674	15,123	16,659
	当期経常外増減額	△ 0	△ 39	△ 0	-	-
	当期一般正味財産増減額	23,981	28,706	29,674	15,123	16,659
	一般正味財産期末残高	△ 980,422	△ 951,716	△ 922,042	△ 922,042	△ 890,260
	当期指定正味財産増減額	124,293	46,804	41,765	18,851	5,685
指定正味財産期末残高	1,549,771	1,596,575	1,638,340	1,657,191	1,662,876	
正味財産期末残高	569,348	644,859	716,298	750,272	772,616	

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 株式会社 滋賀食肉市場

○経営健全化方針を策定した理由：

滋賀食肉センターの開業以降、債務超過の状況が続いていることから、当方針を策定したものである。

○財政的リスクの状況

	平成29年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度末 における目標
債務超過額(千円)	359,740	318,471	279,597	222,969	176,419	220,000
短期貸付の額(千円) [A]	330,000	330,000	310,000	310,000	310,000	280,000
本県の標準財政規模 (千円) [B]	331,724,245	332,107,763	334,637,307	337,982,241	354,095,378	—
実質赤字の早期健全化基 準(%)	3.75%	3.75%	3.75%	3.75%	3.75%	—
[A]÷[B] (%)	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%	0.10%	—

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 株式会社 滋賀食肉市場

○主な取組状況

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- HACCP（危害分析・重要管理点）方式による衛生管理を徹底したと畜解体業務や食肉処理等の業務を行い、安全な食肉を安定的に供給した。
- 衛生品質管理技術の向上と業務運営体制の充実を図るとともに、と畜解体技術の向上を図る対策に取り組むなど、業務改善や経営の健全化に努めた。
- 出荷者の出荷計画を基にと畜頭数の平準化を図るとともに、需要期においても計画的に上場できるよう調整を図った。
- 食品安全マネジメントシステム（FSMS）による内部コミュニケーションの充実を図り、安全・安心思想の徹底を図ることにより、品質の維持を図り、信頼性の高い製品づくりに努めた。

【県による財政的なリスクへの対処のための対応】

- 消費者に対する安全で安心な食肉の安定供給と、近江牛をはじめとした本県の畜産振興を目的とする滋賀食肉センターの業務の円滑化および安定経営の実現に向けた取組を支援した。
- 外部委員により構成された「滋賀食肉センター経営評価会議」を開催し、当法人の経営改善の取組状況について意見を伺った。
- 滋賀食肉センターを開設してから約15年が経過するなかで、施設の老朽化等、顕在化してきている課題をはじめとして、センター全体において抱える様々な課題を洗い出し、解決するための方策や設置運営形態など、センター全体のあり方について検討を行う。

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

法人名： 株式会社 滋賀食肉市場

○法人の財務状況

(千円)

	平成29年度 決算	平成30年度 決算	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	
貸借対照表から	資産総額	440,073	468,880	339,475	379,960	416,569
	1) 流動資産	428,704	457,314	328,511	369,282	406,469
	うち現金預金	188,104	213,308	153,307	208,548	195,564
	うち売上債権	240,146	243,511	175,230	160,655	211,304
	2) 固定資産	11,370	11,566	10,963	10,678	10,100
	負債総額	799,814	787,351	619,072	602,929	592,988
	1) 流動負債	663,835	646,892	486,787	478,112	464,670
	うち短期借入金	280,000	260,000	260,000	240,000	190,000
	2) 固定負債	135,978	140,458	132,284	124,816	128,318
	うち県からの借入金	44,476	44,476	44,476	44,476	44,476
うち有利子負債	23,172	27,652	20,978	14,510	8,012	
純資産総額	△ 359,740	△ 318,471	△ 279,597	△ 222,969	△ 176,419	
1) 資本金	44,070	44,070	44,070	44,070	44,070	
2) 繰越利益剰余金	△ 403,810	△ 362,541	△ 323,667	△ 267,039	△ 220,489	
損益計算書から	売上高	473,558	530,341	548,578	720,947	555,794
	売上原価	69,982	107,292	136,155	300,614	121,518
	売上総利益	403,577	423,049	412,422	420,333	434,275
	販売費及び一般管理費	386,414	401,832	392,971	382,467	406,504
	営業利益	17,162	21,217	19,451	37,866	27,771
	経常利益	36,691	41,455	39,060	56,813	46,735
	法人税	186	186	186	186	186
当期純利益	36,502	41,270	38,874	56,628	46,550	

公益財団法人滋賀食肉公社および株式会社滋賀食肉市場に係る経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

□滋賀食肉センター経営評価会議における評価

○法人自らによる経営健全化のための具体的な取組に対する評価

（公財）滋賀食肉公社、（株）滋賀食肉市場

○評価会議での主な意見

- ・ おおむね業績は計画に沿って改善の方向に進んでいる。
- ・ 公社が受けている補助金は、施設にかかるものであり、これまでの経緯からも今後も県の応分の負担が必要である。
- ・ 公社は、良好な建物施設の管理をして、それを利用者に対して提供するというサービスを行っているが、対価である利用料収入が入場頭数により変動するというのは、一般的な管理者と利用者の関係とは異なる特殊なものであることを理解しておく必要がある。
- ・ 経営ガバナンスやセリと自家割のバランス等、公平・公正の観点から運営の方向性を常に見直していくことが重要である。
- ・ 経営改善のためには、関係者が納得できる経営改善計画を立て、それを必達するよう現場の関係者が地道にコツコツ実行することが必要である。
- ・ こまめに目標の達成状況を把握し、それに基づいて評価を行うPDCAのサイクルを回すことが重要である。
- ・ と畜解体や部分肉加工等の部門ごとに収支を把握したうえで、収入・支出の内容を分析して、収支改善につなげることが重要である。

○県による経営健全化のための具体的な対応に対する評価

- ・ 県内の飼養頭数が増えているが、県外出荷に対しては、何らかの歯止めをかけないといけない。県内産の牛は県内でと畜するというのを農家にも考えてもらい、そうした空気を醸成していく必要がある。
- ・ 滋賀食肉センターの支援にあたっては、県として支援する理由とその範囲を明確にしておくことが重要である。